

有松に受け継がれる伝統 ～町並み・絞り・山車～

有松には歴史的な町並みとともに、伝統産業の有松絞り、市指定文化財の3輦の山車が今日まで継承されています。

有松絞りは400年前、糸でくっつけた木綿を藍などの草木で染めたことにはじまり、絞りの技法は100種類にも及びます。現在、製品は和装にとどまらず、様々な小物やインテリアなど多岐にわたっています。毎年6月第1土・日曜日には「有松絞りまつり」が開催され、東海道が大いに賑わいます。

また、有松にのこる3輦の山車は江戸期から明治期に製作されたものです。毎年10月第1日曜日には、「有松山車まつり(有松天満社秋季大祭)」が盛大に開催され、からくり人形をのせた山車が祭囃子とともに東海道を曳き回されます。

有松絞り



有松・鳴海絞



有松の山車

「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地
～藍染が風にゆれる町 有松～」
が日本遺産に認定されました



日本遺産

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図るものです。

◆アクセス

名鉄
名古屋本線

名古屋

金山

鳴海

有松

知立方面

鉄道：名古屋駅から名鉄名古屋本線で
有松駅まで約20分

車：名古屋第二環状自動車道
有松インターチェンジから東へ約1分

お願い

掲載している個人住宅の内部は
非公開です。散策の際には、住民
の方のプライバシーに十分配慮
していただくようお願いします。



名古屋市歴史まちづくり
PRキャラクター「歴まちくん」と「おとも」

発行者

名古屋市観光文化交流局歴史まちづくり推進室

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

TEL: 052-972-2782 FAX: 052-972-4128

Email: a2782@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp

2020年3月発行



重要伝統的建造物群保存地区・
町並み保存地区



有松の東海道沿いの町並みは、平成28年7月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、有松地区の文化・伝統を語るストーリーが令和元年5月に日本遺産に認定されました。

まちの成り立ち

有松は、慶長13年(1608)、東海道の鳴海宿と池鯉鮒宿の間に尾張藩によって開かれました。東海道を往来する旅人の土産物として絞り染め(有松絞り)が考案され、以降、有松絞りとともに有松のまちは発展しました。

天明4年(1784)の大火により村のほとんどが焼失しましたが、尾張藩の援助もあり、20年程でほぼ復興したと伝えられます。

明治維新以降、東海道の往来者が大きく減ったことなどから、有松絞りは著しく衰退しました。しかしその後、新たな意匠や製法の開発、卸売販売への業態転換などによって再興し、明治後期から昭和初期にかけて最も繁栄しました。

東海道沿いには、今なお豪壮な絞商の主屋をはじめとする数多くの伝統的な建物がのこり、有松絞りによって繁栄した往時の様子を今に伝えています。



歌川広重 東海道五十三次 鳴海(名物有松絞)
(名古屋博物館 所蔵)

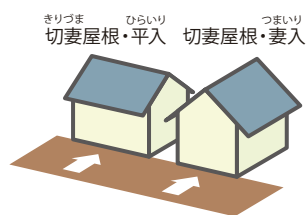
※現在の市域をもとに作成



町並み・建物の特徴

ゆるやかに曲がった東海道約800mの区間に沿って、広い間口を持つ絞商の主屋や門・塀が数多く見られ、比較的ゆったりとした町並みが継承されています。

また、江戸後期から昭和前期までの様々な時代の建物がみられますが、東海道に面する主屋は木造2階建、切妻屋根、棧瓦葺、平入を基本としており、統一感のある町並みとなっています。



切妻屋根とは二つの斜面からなる山形の屋根のこと。平入とは切妻屋根の斜面側に出入口を設ける形式で、道路と軒が平行となります。



ゆるやかに曲がった東海道沿いの町並み

時代ごとの主屋 (いずれも絞商の主屋)



江戸期



明治期



昭和前期

2階の高さが
だんだん高くなっているね



建物配置の特徴

商家の配置の例

有松の絞商は、かつて東海道を往来する旅人に店頭販売を行うため、間口の広い主屋を東海道に面して建てました。有力な絞商は広大な敷地を持ち、主屋、土蔵の他に東海道沿いに塀をめぐらせ、内側を庭とし、茶室、書院座敷、離れ(隠居屋)を置くものもあります。



書院座敷



茶室と庭

配置イメージ



代表的な絞商の主屋 (特徴と用語解説)





① 竹田家住宅 (竹田嘉兵衛商店)

◆市指定有形文化財 ◆主屋：江戸末期建造

竹田家は、寛保年間(1741~1744)に絞業を営んでいた竹田嘉七郎に始まると伝えられています。時代とともに改造されながらも、江戸末期の様式を継承した主屋、14代将軍徳川家茂が訪れたとされる茶室「裁松庵」、明治から大正にかけて整備された土蔵群や洋間、書院座敷、門、塀等が現存し、有力な絞商の屋敷構えの典型例をみることができます。

Point! ガス灯
明治期のガス灯の名残



② 服部家住宅 (井桁屋)

◆県指定有形文化財 ◆主屋：文久元年(1861)建造

服部家(井桁屋)は、寛政2年(1790)に創業した絞商です。敷地の間口は、有松の中で最大であり、江戸末期から明治30年代にかけて整備された建物が数多く残っています。主屋、絞りの原材料や米を貯蔵するための蔵、接客用の書院座敷などが建ち並び、有力な絞商の屋敷構えを今なおよく残しています。

Point! 敷地間口約45m!
主屋の脇に塀・門・土蔵が連なる。敷地間口は有松で最大

③ 服部良也家住宅

Point! 虫籠窓

格子に金属製の丸棒を使用
◆県指定有形文化財(土蔵)
◆主屋：明治28年(1895)建造



明治期に創業した絞商(いげや)の屋敷の大部分が当時のまま残っています。虫籠窓の格子に金属製の丸棒を使用することは、明治期以降にみられる主屋の特徴の一つです。塗籠造、なまこ壁をもつ主屋西隣の土蔵の重厚な外観は行き交う人の目を引きます。



有松天満社

有松の氏神。寛政年間(1789~1801)の初めに、祇園寺の境内から遷座されたと伝えられています。



建物の特徴を探してみよう!



伝統的建造物群保存地区
町並み保存地区



有松・鳴海絞会館

有松絞りの資料展示と販売

【入館料(資料室見学)】
大人:300円 小・中・高生:100円
【開館時間】
9:30~17:00
【休館日】
年末年始、その他臨時休館有



有松山車会館

山車の展示・まつり文化の紹介

【入館料】
大人:200円 高校生:100円
【開館時間】
10:00~16:00
【休館日】
月~金曜(土曜・日曜・祝日のみ開館)
年末年始

④ 小塚家住宅

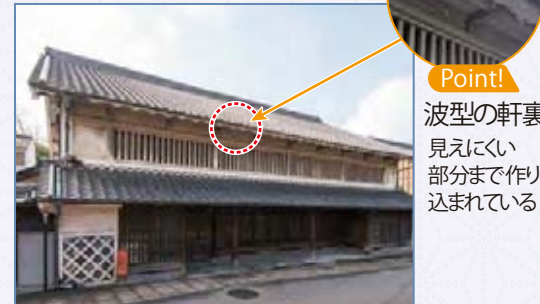


Point!
うたつ
卯建
有松では
数少ない
卯建の
上がる家

◆市指定有形文化財 ◆主屋：文久2年頃(1862)建造

小塚家が有松に居を構えたのは、寛文年間(1661~1673)と言われています。卯建をあげる主屋が特徴的で、主屋、水屋、表蔵、南蔵、茶室等の絞商の屋敷構えが一式で残っています。明治期まで絞商を営んでいました。

⑤ 岡家住宅



Point!
波型の軒裏
見えにくい
部分まで作り
込まれている

◆市指定有形文化財 ◆主屋：江戸末期頃建造と推定

主屋は、平入、棧瓦葺、1階には格子をはめ、2階は重厚な塗籠造で、虫籠窓となっており、江戸末期の絞商の主屋の特徴を残しています。

建物公開 土曜・日曜(年末年始除く)に建物公開しています
【公開日時】10:30~15:30(見学無料)

⑥ 中濱家住宅



Point!
軒瓦に山ヨ
山田家が
所有していた
ころの名残

◆国登録有形文化財 ◆主屋：明治中期頃建造

当初は絞商の山田与吉郎家の建物であり、平成16年(2004)からは中濱家(中濱商店)の建物として使われています。土蔵の軒先の瓦に「山ヨ」の印が入っており、山田家が所有していた頃の名残が感じられます。

⑦ 棚橋家住宅



Point!
しろうきさま
鍾馗様
邪気から家を守る
存在

◆国登録有形文化財 ◆主屋：明治9年(1876)建造

有松を代表する絞商(大井桁屋)の建物として建てられ、昭和8年(1933)からは棚橋医院として建てられ、約50年間使われてきました。平成23年から3年かけ、屋根の葺き替え、座敷の復原、耐震補強などの大がかりな改修を行いました。

伝統的建造物群保存地区

文化財保護法に基づき、歴史的町並みの保存・形成に取り組む地区。伝統的建造物群保存地区のうち、特に価値が高い町並みを国が重要伝統的建造物群保存地区として選定します。

